

ゆかいな仲間たちと吹奏楽の演奏でみんなを笑顔にしたい

心理臨床学科心理臨床専修1年 澤田佳奈(さわだ かな) 愛知県・大府東高校出身

私たち合奏研究会吹奏楽団は今年度で創部40周年を迎えた吹奏楽団で“合奏研”と略されています。簡単に説明すると、吹奏楽を愛する人の集まりです。現在は1年生16人、2年生6人の計22人で活動しています。吹奏楽をやっていたという人ならわかるかもしれませんが、他の楽団と比べても部員数はあまり多いほうではありません。そんな中でも、今年は数年ぶりに全日本吹奏楽コンクールに出場する予定で、聴いてくれる方に笑顔届けられるような演奏をモットーに日々楽しく練習に励んでいます。

私たちの活動内容としては演奏会の出演はもちろん、児童センターへの訪問演奏も行っています。児童センターでは子どもたちに喜んでもらえるような曲目を考えたり、楽器体験を盛り込んで子どもたちが飽きないような演奏会づくりを心掛けました。演奏中に一緒に歌ってくれる子やありがとうと言ってくれる子がいるので達成感があり、とても嬉しい気持ちになります。前々

から演奏会を楽しみにしてくれた子も沢山いました。私自身、「わたしも将来吹奏楽にはいりたい！」と言ってくれる子がいて本当に嬉しかったです。

私たちの楽団の特徴は先輩後輩、男女関係なくとにかく“仲良し”というところだと思います。いつも、練習するときは練習する、遊ぶときは遊ぶ、のメリハリを持って活動しています。みんないい演奏をしたいという目標は同じです。そんな仲のいいメンバーだからこそ、言いたいことははっきり言ってお互いの技術を高めたいところが、私たちの楽団の最大の魅力でもあると思います。

吹奏楽といえば中学高校の部活動というイメージがある人も少なくないはずですが、大学生になってから始めるという人もいます。楽器もその楽器が好きという気持ちさえあれば絶対に上手くなりますよ♪これからも、ゆかいな仲間たちと一緒に私たちの演奏を聴いてくれた方を笑顔にできるように努力したいと思います。



わたしたちの先生を紹介します

心理臨床学科心理臨床専修3年 望月隆寿(もちづき たかひさ) 静岡県・富士宮北高校出身

堀美和子(ほり みわこ) 心理臨床学科准教授

私が所属するゼミの堀美和子先生を紹介していきたいです。堀先生は学生のやりたいことを傍で支えてくれる存在です。常に手を差し伸べるのではなく、学生が行き詰った時に、手を差し伸べてくれます。ゼミの時は口出しをあまりせず、学生だけで進めるように促し、行き詰ってしまった時に助言をしてくれるのです。学生のことを常に見て、変化に気付くことが出来なければ、このようなことは出来ないと思います。観察力が鋭い！！

また、堀先生には他の一面を持っています。それは、おっちょこちょいなところ。例えば、配布資料を研究室に忘れてしまったり、ゼミ室の鍵を持ってくるのを忘れてしまったりと、とにかく忘れ物が多いです…。他には、堀先生は学生の顔と名前的一致が苦手です。このような面もありますが、このおっちょこちょいなところが毎回ゼミ内の雰囲気をも明るくしてくれます。堀先生のおかげで、私たちのゼミは笑いが絶えないです。これらすべてを含めて堀美和子先生の魅力だと私は思います。最後に、ゼミ生の願いとして、顔と名前をはやく一致させて欲しいです(笑)



子ども発達学科保育専修2年 大信田諄哉(おおしだ じゅんや) 愛知県・新城東高校出身

塩崎美穂(しおざき みほ) 子ども発達学科准教授

塩崎先生は、海外での経験も豊富な保育を専門としている先生です。まだ日本福祉大学に赴任して比較的日の浅い先生ですが、その人柄から多くの学生に慕われています。講義の時の先生は、非常に論理的で、それでいて枠にとらわれない考え方、意見を示してくださいます。また、海外での経験から、日本と外国を比較して講義を展開されることもあります。私は先生の講義を受けてから、当たり前とはなにか、その事柄の背景には私の予期せぬ文化的な理由があるのではないかと考えるようになりました。穏やかで柔らかな雰囲気を持った先生は、とてもユニークで、よく笑う方です。私達学生の話にもよく耳を傾けてくださり、先生の小粋なジョークで和気あいあいと談笑することもあります。私達と歳の近い息子さんがいるとおっしゃっていたので、より親しみをもちてくださっているかもしれません。塩崎先生は、私達学生に対しても理解を持ち、分け隔てなく接して下さる先生です。



この号の主な内容

- 新たなる旅立ち・就職への道 その1 1
- 新たなる旅立ち・就職への道 その2 2
- 自分の視野を広げるゼミ活動 2
- 心理臨床学科から保育専修に転籍 3
- 美浜町でのインターンシップ アルバイトやボランティアの経験 3
- ゆかいな仲間たちと吹奏楽の演奏で みんなを笑顔にしたい 4
- わたしたちの先生を紹介します 4



河和南部小学校で教職インターンシップのワンシーン

We Love You

— 日本福祉大学 子ども発達学部ニュースレター —

第14号 2015年 4月1日発行

新たなる旅立ち・就職への道 2015

～自分の目指す保育士になるために～

子ども発達学科保育専修4年 神戸千賀子(かんべ ちかこ) 三重県・神戸高校出身

保育士になることが小学生からの夢でした。日本福祉大学で保育について勉強したり、実際に保育実習をさせて頂くなかで、「自分のしたい保育とはどんな保育か?」ということ学ぶことができたように思います。

私は地元の私立保育園での就職が決まっていますが、その保育園は大学3年生の頃に実際に保育実習をさせて頂いた保育園でした。たった2週間の保育実習でしたが、さまざまな活動を通して子どもたちと触れ合ったり、先生方のお話を聞いたりすることができました。そして、「私もこの人のような保育士になりたい」「保育士になったら子どもたちとこんなことをしてみたい」と、自分のなかで具体的な気持ちが芽生えていきました。この気持ちが芽生えたことは、ただなんとなく子どもが好きだからという理由だけで保育士になりたいと思っていた私にとって大きな変化でした。そして、この保育園でこれからも保育士として活躍したいと感じるようになりました。実習後は、私立保育園の就職説明会に参加したり、何度か保育園に足を運ぶなど、保育園の雰囲気を実際に体験するというのを大切にしていました。

私が選んだ道は、自分の考える保育を貫くことができる私立保育園での就職でした。全ての保育園で、自分の考える保育ができるとは限りません。保育園や施設で就職したいと考えるなら、保育園見学や、自主実習をしてみると良いと思います。さまざまな保育園や施設を体験することによって、今まで見えなかった本当の自分の思いが見えてくると思います。

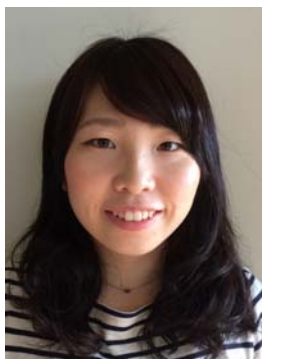


力を与えてくれた仲間の励まし

子ども発達学科初等教育専修4年 白木里佳(しらき さとか) 岐阜県・大垣東高校出身

教員採用試験に合格できたのには、仲間の存在が大きいと感じています。もちろん、机上の学習では自分の努力も必要ですがそれだけでは合格することはできなかったと思います。3年生の後期頃から、以前から友人が行っていた、授業の空き時間を利用して教員採用試験の情報共有や、様々なことについて討論するという活動に参加しました。最初は、皆が試験に向けて切り替え始めていたため、自分も何かしなければという焦りから始めたのが正直なところ。しかし、活動を共にする中で自分の甘さを痛感したり、仲間から学ぶことが多くあったりと、この活動のおかげで試験に向かう気持ちをしっかりと作ることができました。4年生になる頃に本格的に面接練習を始めました。学部全体でも有志学生による教授対策サークルを作り、面接や集団討論の対策などを行いました。他の学生の勉強スタイルを聞き参考にし、互いにアドバイスをし、同じ自治体を受ける学生と励まし合うという学生同士で切磋琢磨することができる環境でした。

私には同じように前を向いている仲間がいることがとても心強く、その仲間の励ましがあつたからこそ最後まで頑張ることができたと感じています。正直、仲間の頑張る姿を見て焦ったり、自分の進度の遅れに悔しくなったりすることも少なくありませんでした。しかし、そういった本気の仲間がいてくれたからこそ自分も前へ前へと進もうとすることができたのです。このような素敵な仲間に出会えた大学生活に感謝し、仲間と切磋琢磨した日々を糧に教員になってからも前を向いて頑張りたいと思います。



男性保育士を目指して四年間学んだこと

子ども発達学科保育専修4年 八神将史(やがみ まさし) 愛知県・熱田高校出身



中学3年の頃から保育士になりたいと思っていました。きっかけは小さい頃から父親の背中を見て僕も父親のような保育士になりたいと思い、この大学の保育専修を選びました。

入学後、実習時に担当の先生から教えられて今でも意識していることは、「先の見通しを立てる保育をし、子どもと接する。」です。子どもと接する際、保育士は、子どもは今何を考えているのか、どう働きかけをしたら子どもは次のことをやってくれるのかということを考えるように意識しました。そのような働きかけをすることにより、子どもも先生から言われなくても、次は何をやればいいんだらうと子ども自身も気づいてできるようになっていきました。また実習や大学一年時からずっと続けてきた保育園でのアルバイトを通して、声かけが重要だと感じましたが、子ども自身が自覚的に考え行動することも、子どもの成長に繋がっているのだと強く学びました。

最後に男性保育士は年々増えていますが、まだまだ就職するのは簡単ではありません。しかし絶対自分にあう園が見つかると思うので、妥協せずに日々努力を惜しまずに頑張っていくてください。そして、実習時には日誌などで辛くなることも時にはあると思います。その時は根本的な子どもを楽しませることを絶対に忘れないでください。それを含めて子どもを楽しませる前に自分が実習、保育を楽しんでください。自分が笑顔でいることにより子どもも笑顔になると思います。是非このことを頭にに入れて保育士になってください。

たすけあうことが仕事の理念

心理臨床学科4年 尾崎太一(おさき たいち) 愛知県・東海学園高校出身



私は日本福祉大学に入学する際、子どもを助ける仕事に就きたいと考えていました。しかしアルバイト先であるサービス業でお客様とお話をしたりお客様のニーズに答えたりしていく内に、ボランティアで子どもと関わりつつ社会に貢献したいと考えるようになりました。

大学3年生の12月から就職活動が本格的に始まり、様々な企業が説明会を行う中で私は生活協同組合を中心に活動しました。その理由としては理念に「たすけあい」というワードが含まれていたからです。協力し、支えあい生活していく。そのような「たすけあい」の心を持ち、仕事をしていく事に惹かれ最終的に生活協同組合の1つに入会することができました。(生活協同組合では入社のことを入会といいます)

今後社会にでることで不安は絶えません。ただそれ以上に希望や期待が膨らみます。就職先では大きい仕事、小さい仕事関係なく全力で取り組んでいきたいです。最後に就職活動のことで面倒を見ていただいたキャリアの方、先生方ありがとうございました。

教員採用試験合格はゴールではない

子ども発達学科初等教育専修4年 鳥居亮佑(とりい りょうすけ) 石川県・遊学館高校出身

この度、私は兵庫県の教員採用試験を受け、無事に合格することができました。今、教員採用試験をふりかえてみると、私はひとつの想いによって支えられていたように思います。その想いとは「教員採用試験に合格することがゴールではない」ということです。

この想いの真意は、大学生活で私に多くの学びを与えてくださった先生の次の言葉の中にあります。「君たちは、大学で学んだことを教育・福祉の現場で還元することにその使命があります。だからこそ大学での学びを大切にしてください。」と話してくださいました。つまり、教育者に育つ者として、常にゴールは子どもたちと出会った先に初めて見えてくるものであるということです。だからこそ、私たちは大学での一つひとつの学びを大切にしていかなければいけないのです。

これから教員採用試験に挑戦していく皆さん、試験対策はとでも大変で報われる日が来るのか不安でいっぱいだと思います。ですが、きっと皆さんの頑張りはこちらから出会う子どもたちの笑顔と学びを創ることでしょう。そしてそのような日々が皆さんの目的地になりますことを祈っています。私も4月からこれまでの学びを活かしながら、子どもたちの笑顔と学びを創っていきたいと思います。

自分の視野を広げるゼミ活動

心理臨床学科障害児心理専修2年 古藤田有花(ことうだ ゆか) 大分県・佐伯鶴城高校出身

私は、障害学基礎演習Ⅱで大和田ゼミに所属しています。大和田ゼミでは、大和田孝士先生による特別支援教育や愛知県の特別支援学校の状況を中心に講義を受けています。また、1つの施設を先生が実際に取り上げられ、学生は現状の説明を受けました。このゼミには、特に障害児教育について学びたいと考えている学生が多く所属しています。同じ志のある学生が多く集まっているため、教育をはじめとする分野の現状を知るということは非常に重要なことです。自分の興味のある分野、学びたい分野のことはまず現状を知ることの意味があると考えます。私たちは現在、現状を知った上で特別支援教育にとって重要である個別の教育計画というものを書いています。ただ知識として情報を得るだけでなく、自分が教師になったらと考えながら書いていくことが大切なのです。

室内で先生の話を聞き、書かなければならないものを書くだけがゼミではありません。私たちはゼミの授業の一環として、知多半島と名古屋市にある4つの特別支援学校と障害のある方が日中に利用している施設等の見学に行かせていただきました。それぞれの場に行くのがはじめての学生も多く、学校や施設を自分の目で見て、そこで働いている方の話を聞くことでそれまではぼんやりであった現場のイメージがどんどん膨らんでいきました。自分の視野を広げ世界を広げることのできるゼミの活動により、私たち大学生は毎日充実した大学生生活を送ることができています。



心理臨床学科から保育専修に転籍、求めた夢に向かって

子ども発達学科保育専修4年 大西晴奈(おおにし はるな) 静岡県・磐田東高校出身



私は、2011年に心理臨床学科に入学しました。子どもに関わる仕事をしたいと考えていた私は、心理臨床学科での子どもの心理について、研究していこうと思っていました。

しかし、勉強を進めていくうちに、私が本当にやりたいことは、子どもの心理ではなく、子どもの保育だと思ようになりました。保育士になって、子どもたちと直に触れ合って、保育の道を極めたいと思うようになりました。その夢を叶えるために、私は、保育専修へ転籍するという決断をしました。この決断に至るまでに多くの迷いや不安がありました。心理臨床学科で知合った友人や、教授に会えなくなる寂しさや、保育専修の方々とは1年遅れで保育を勉強することに対する不安など、たくさんありました。しかし、夢を叶えたいという思いから、私は、この決断に至りました。容易な試験ではありませんでしたが、合格を頂くことができました。

2年生になり、保育専修へ移りました。そこから、本当に大変な日々でした。1年生の保育必修単位と2年生の保育必修単位を平行して取らなければいけませんでした。2月に

美浜町防災安全課でのインターンシップ

心理臨床学科心理臨床専修2年 朝倉美和(あさくら みわ) 長野県・下諏訪向陽高校出身

私は、美浜町役場の防災安全課でインターンシップをさせていただきました。なぜこの場所を選んだのかというと、東日本大震災が起こった後から震災や防災のことに興味を持ち始めたからです。私ははじめ、防災安全課は避難訓練や炊き出し、ハザードマップの作成など、防災にかかわる業務だけを行っているのだと考えていました。しかし、実際にインターンシップをさせていただいて、考えが変わりました。駐輪場に自転車盗難防止の旗を立てる、廃棄自転車の確認を行う、曲がったカーブミラーを直す、外灯にからまったツルを撤去する、美浜町を巡回している無料のバスの乗車人数の集計を行うなど、防災関係のこと以外にもパソコンの作業から外で行う作業まで、幅広い業務がありました。町の人たちが暮らしやすいようにするためには細かく様々な業務があることを知ることができました。

また、美浜町の消防操法大会や地震体験車での地震体験など災害に関することも経験させていただきました。消防操法大会というのは、消防団の方々が、ホースをつなぎ合わせるころから始まり、火災現場に見立てた火点という的にめがけて放水し、撤収するまでの一連の動作を行い、タイムを競い合う大会のことです。私はこの大会で選手紹介のアナウンスをやらせていただきました。大勢の人の前でのアナウンスはとても緊張しましたが、役場の方々を支えていただき、なんとか終わることができました。大会を見ていて、災害時に活動するためにはいかに早くチームワーク良く動くかが大事だなと思いました。そして、地震体験もさせていただきました。関東大震災の時と同じ揺れを体験しましたが、震度7の揺れは予想よりもはるかに激しく、改めて地震の恐ろしさを認識することができました。今回のインターンシップでは、役場の仕事の多様さを学べ、また親切な役場の方々にも恵まれ、とてもいい経験ができたと思います。

は保育実習も始まり、体力的にも精神的にもきついものがありました。それでも、たくさんの人々の支えと理解があつて、こうして勉強できている、ということを常に思い、諦めずに取り組みました。その結果、1年生の保育必修単位は、2年生のうちに取り切ることができました。

3年生からは、他の保育専修の方々と同じペースで勉強することができました。6月と11月の実習も乗り越え、4年生に進級しました。

4年生になって、すぐ就職活動が始まりました。私は、地元の公務員保育士を目指しました。キャリア開発課の方々の支援を頂き、面接対策や筆記試験対策など、丁寧な指導をして頂きました。試験は5回ありました。5月に始まり、最終合格は9月に決定するという、長期戦でした。一次試験では、5月の幼稚園実習の最中にあり、実習と就職活動との並行で、とても苦しい時期が続きました。合格発表の度に大きな不安が襲いました。しかし、ここでも周りの方々に支えられ、最終合格をすることができました。

2年生から保育の勉強を始めるという、遅れたスタートでしたが、夢を叶えることができました。これには、多くの人の支えと理解があつたからこそ、実現することが出来たのだと思います。私の夢のために、理解、指導して下さいました先生方や友人、家族には、心から感謝しております。どんなことがあっても、諦めずに夢を追い続けてください。夢を実現させてください。夢を叶えたいという強い思いがあれば、道は開けるということ、身を持って実感しました。4年間この日本福祉大学で勉強し、多くの仲間に出会えたことを心から嬉しく思います。4月から磐田市の公立保育園の保育士として、一生懸命取り組んでいきたいです。

アルバイトやボランティアの経験が...

子ども発達学科保育専修2012年度卒業 森瑛梨奈(もりえりな) 愛知県・若宮商業高校出身

私は子ども発達学部・子ども発達学科を卒業しました。現在は障害者のヘルパーステーションに就職をし、3年目になります。大学時代に友達に誘われアルバイトを始めたことがきっかけで今の仕事にやりがいを感じ就職をしました。

大学時代のアルバイトやボランティアの経験があつたから今やりがいのある仕事に就く事が出来たと思います。学生時代の経験は将来を広げるととても大切なことだと思います。

また障害者と関わる機会は普段生活している上ではあまりないことだと思います。ボランティアさん等で多くの人に関わってもらい障害者がどんな生活をしているのかという事をより多くの人に知ってもらいたいです。

職種は保育ではないけれど、学生の時に学んだことは今の仕事に活かすことができている。これからも頑張っていきたいと思っています。

